

Jane Eyre

Charlotte Bronte

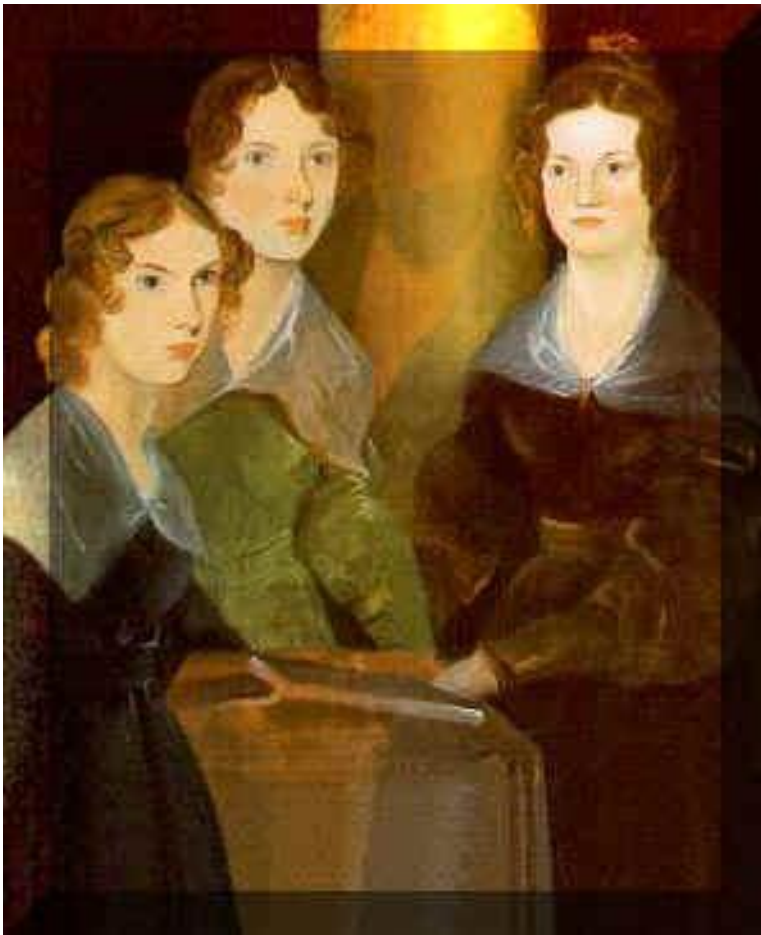
美術教育 大原さん



■ ブロンテ姉妹とは？

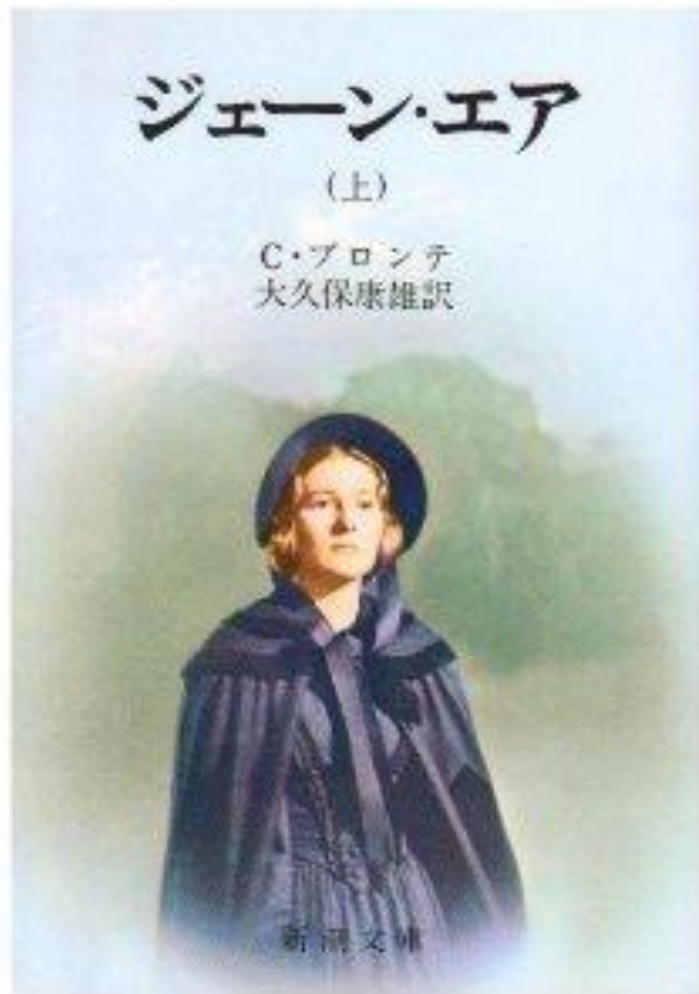
ブロンテ姉妹は、イギリスのヴィクトリア時代を代表する小説家姉妹。シャーロット、エミリー、アンの3人を指す。

ヨークシャーのソーントンの牧師の子として生まれた。3人共同の『詩集』を発表ののち、小説を書く。シャーロットは『ジェーン・エア』、エミリーは『嵐が丘』、アンは、『アグネス・グレイ』を発表しイギリス文壇に多大な影響を与えた。



1835年ごろ、ブランウェルによって描かれた3姉妹。左からアン、エミリー、シャーロット。エミリーとシャーロットの間にはブランウェルが描かれていたが、彼自身の手によって消されている。

■ ジェーン・エアとは？



孤児ジェーンが、家庭教師として住み込んだ家の主人と結ばれるまでを描く。当時の社会に反抗した主人公は新しい女性像を提供し、多大な反響を呼んだ。

主人公ジェーン・エアは、美しいほうではなく、普通の容姿の女性である。たいていヒロインは美しいもの、とされているが、この価値観を根本から覆している。孤児であることに対する不満、男女平等意識という反骨精神を描き、また女性から告白するという点も、当時の社会常識から大きく逸脱した行為である。財産や身分にとらわれず、自由恋愛という形で結婚するという点は、ヴィクトリア期の文学において画期的であった。

■シャーロット・ブロンテとは？

1816年4月21日、イギリスのヨークシャーのソーントンに、牧師パトリック・ブロンテの三女として生まれた。幼い頃に母を亡くしている。1824年8月、ランカシャーのカウアン・ブリッジ校に妹エミリーとともに入学する。その学校は施設・教育ともに悪く、姉マリアとエリザベスは、学校の不衛生が原因で肺炎のために1825年に死去。この学校は『ジェーン・エア』のローウッド学院のモデルである。



父の看病の合間に第2作「ジェーン・エア」を執筆。社会に反抗する同名の女主人公は大反響を呼び、その名前を広く知られるようになった。しかし翌年、ブランウェルが死亡すると、同じ年の末にエミリーも死亡。さらに翌年にはアンも倒れ、わずか29歳で没した。『シャーリー』（1849年）、『ビレット』（1853年）などを発表、1854年6月に副牧師のアーサー・ニコルズと結婚した。だが妊娠中に妊娠中毒症にかかり、1855年3月31日に、「エマ」を未完のまま死去した。3姉妹だけでなく6人の中でも最も長く生きたが、それでも38歳の若さであった。ブロンテ姉妹では唯一写真が現存する。

■ ジェーン・エアの主な登場人物

① ジェーン・エア

主人公。美人ではないが、確固たる意思を持つ女性。孤児であるため、叔母のもとで育てられる。ロチェスター家の長女のカヴァネスとして、雇われる。

② エドワード・フェアファックス・ロチェスター

ジェーンの思い人。容貌がいいとは言えないが、ロチェスターもジェーンを愛している。貴族。

③ リード夫人

亡き夫に頼まれてジェーンを子供たちと一緒に育てる。ジェーンを嫌っており、疎ましく、扱っていた。

④ ヘレン・バーンズ

ジェーンのローウッド学院時代の親友。しかし肺病にかかり死亡。

⑤ セント・ジョン・エア・リバーズ

牧師。ジェーンの従兄にあたる。



■ あらすじ

幼くして父母を失ったジェーン・エアは、母方の伯父であるリード家に引き取られるが、リード氏亡き後、その妻であるリード夫人や従兄弟たちに疎外され、10歳の時、ローウッド寄宿学校に預けられる。

ここで彼女は、初めて心を通わせられる友、ヘレン・バーンズや、慈愛に満ちたテンプル先生と出会う。しかし、プロックルハースト家が経営する、この学校の教育環境や衛生管理は劣悪で、チフスの蔓延により多くの生徒が死亡する。聡明で優しい友・ヘレンもその犠牲者であった。ジェーンは、生まれて初めて愛する人の死に接し、大きな衝撃を受ける。その傷ついた心を支え、彼女を教え導いたのは、テンプル先生だった。

6年間を生徒として、2年間を教師としてローウッドで過ごし、成長した彼女は、テンプル先生の結婚退職を機に、自立する決意を固める。新聞に出した広告が縁となり、彼女がガヴァネス（住み込みの家庭教師）となってソーンフィールド屋敷へ赴いたのは、18歳の時だった。館の主・ロチェスターは不在で、家政婦のフェアファックス夫人が一切を切り盛りしていた。

彼女と親しくなったジェーンは、館の一室から時折聞こえてくる奇妙な笑い声に気づく。フェアファックス夫人は、それを老いた狂女グレイス・プールのものだと言った。使用人の少ない、広大な屋敷で聞くその不気味な声は、彼女に一抹の不安を与えたが、寄る辺なき身の上の彼女は、ここで生きていこうと固く心に誓う。

ロチェスターの養女である愛らしい少女・アデルの家庭教師として3ヶ月が過ぎた頃、彼女は初めてロチェスターと会う。いかつい容貌ときつい口調、そして気まぐれとも取れる気質。彼は、世間一般で言われる美男子ではなかったが、彼女は彼の奥底にある思慮深く暖かい心と、その心に負った深い傷に気づく。またロチェスターも、虚飾と虚栄に満ちた貴婦人たちとは明らかに違う、ジェーンの聡明さと豊かな教養を知り、新鮮な驚きに打たれる。

やがて、グレイス・プールがロチェスターの部屋に放火し、それを発見したジェーンが彼を救ったことを契機として、二人は互いの気持ちに気づき、次第に愛を深めていく。ロチェスターに求婚されたジェーンは、結婚を承諾し、身分の違いを超えて愛を貫くことを誓う。

しかし、未来への希望に燃えて臨んだ婚礼の場で、恐るべき事実が発覚する。ロチェスターには既に妻があり、発狂して邸内に幽閉されていたのである。夜ごと聞こえた笑い声や放火は、狂った妻・バーサの仕業だったのだ。彼の亡き父が、3万ポンドの資産に目が眩み、無理やり息子と結婚させた女、それがバーサだった。彼女の母親も精神病を患っており、新婚旅行から帰って来ると、彼女は程なく発狂した。以来十数年にわたり、ロチェスターは、グレイス・プールにその面倒を見させていたのである。

茫然自失し、身の回りの物すら何一つ持たず、ソーンフィールドを去ったジェーンは、荒野を彷徨い、行き倒れそうになったところを、ムーア・ハウスに住む牧師・セント＝ジョン・リヴァーズとその妹たち・ダイアナとメアリーに救われる。深く傷ついたジェーンを、姉妹たちは優しく癒し、セント＝ジョンは、彼女にモートン女学校の教師の職を世話してくれる。ここで働くうちに、ジェーンはようやく落ち着きを取り戻していった。

そんなある日、彼女の許に1通の手紙が舞い込む。それは、ジョン・エアという父方の叔父が亡くなり、2万ポンドもの遺産を彼女が相続することになったのを知らせたものだった。この手紙がきっかけとなって、セント＝ジョンと彼の妹たちが、ジェーンの父方の従兄姉であることが判明し、彼女は遺産を4等分して3人に贈る。彼女はこうして、財産を持ち、独立した女性となった。

天涯孤独の身の上であったジェーンは、3人の従兄姉と暮らす日々幸福を感じる。しかしセント＝ジョンは、これを機に、かねてよりの宿願であったインドへの伝道を実行に移す決意を固め、彼女に妻としてともに旅立って欲しいと申し込む。彼に対して、感謝

と親愛の情を抱いていたジェーンではあったが、彼のプロポーズが愛によるものではなく、彼女の情熱と知性と献身的な性格のみを必要としているだけであることを知り、結婚を拒絶する。その時、彼方から聞こえてきた自分を呼ぶ声に、彼女はロチェスターの身に何かが起こったことを悟り、不安に居たたまれずソーンフィールドへと向かう。

1年ぶりに見たソーンフィールド屋敷は、廃墟と化していた。近くの宿屋で事情を聞くと、バーサの放火で館が焼け落ちたのだという。その火事でバーサは死亡し、ロチェスターは失明した上、左腕を失った。そうして失意の彼は、ファーンディーンの館に籠って、世捨て人のように暮らしていたのである。

今こそジェーンは、自らの意志で、身も心も傷ついたロチェスターと、一生をともに生きることを決意する。愛する人の許へ駆けつけた彼女に、彼は生きる希望を取り戻し、結婚を申し込む。かくして二人は結婚し、子供を儲け、この上ない幸福な10年を過ごす。



■ ジェーン・エアの舞台

ブロンテ姉妹の作品に出てくる登場人物と場所の多くには、モデルが存在します。ここでは、『ジェーン・エア』の舞台のモデルをいくつか紹介する。

①ワスのセント・メアリ教会

ジェーンとロチェスターが式を挙げようとした教会は、ワスというところにあるセント・メアリ教会がモデルだ。



▼ワスのセント・メアリ教会の内部の様子



②ノートン・コンヤーズ邸
ソーンフィールド邸のモデルの一つ。



▼屋根裏の狂女バーサの部屋のモデルになった部屋。



■ ジェーン・エアが社会にもたらした影響

ヒロインとしてのジェインは美人としては描かれていない。(映画の中の幼少期はとても可愛らしく美人だったが・・・。) 昔も今もヒロインは美人と決まっているのだが、あえて作者のシャーロット・ブロンテは伝統に逆らって普通の容貌の女性をヒロインにした。美貌を女性の価値と見る男の価値観を引っ繰り返したかったからだろう。

『ジェイン・エア』は発表当時社会的議論を巻き起こしたが、それはこの作品には当時の価値観に従わない要素が満ちあふれているからである。レディ・イーストレイクという人物はこの作品には「高慢な人権思想」がみられ、危険な書物だと言った。孤児という運命を謙虚に受け止めるのではなく、それに不満を言うなどもってのほかだというわけだ。確かに『ジェイン・エア』は、ヴィクトリア時代の保守的な文学伝統と社会常識を脅かす要素をもっていたといえるだろう。



■他の作品とはひと味違った『ジェイン・エア』の要素

① 激しい感情をあらわにする。

→ 不当な扱いに対する反抗、自分を認められたいという思い、自由へのあこがれ、知識や未知の世界に対するあこがれ

② 女から求愛する。

③ 身分の違いを越えて結婚を考える。

→ 結婚：自分を金銭的な投機の対象とは考えていない、情熱や感情の一致を重視している。

④ 男女の平等意識。

⑤ 男や社会の考えをそのまま受け入れるのではなく、自分の価値観で判断する。

→ 絶えず自己批評、自己分析を繰り返しながら成長してゆく。

例：ジェインは小学校で教えることになって品位を落としたと感じる。しかしこれはすぐに克服する。彼女の考え方というよりは、社会的価値観を受け身的に反映したもの。

⑥ リード一家やイングラム嬢を初めとするロチェスターが付き合っている上流家庭の人物はみな美男美女だが、いずれも高慢で、傲慢で、意地の悪い俗物として描かれている。それに対して、ロチェスターを自分と同類の人間だと感じる。しかしその一方で伝統的な側面も合わせ持っている。

⑦ 財産や身分のもつ価値を完全には否定していない。

→ 結局は自分よりも身分が上のロチェスターと結婚し、都合よく遺産も相続する。せいぜい遺産の分け前を従兄弟たちに与えるだけだ。遺産相続後の生活は、メアリーは絵を描き、ダイアナは百科事典の読破を続け、ジェインはドイツ語を勉強しているという優雅な生活だ。

⑧「3段階の法則」のパターン

→現実と自己が溶け合わない疎外された段階、次に現実から圧迫され悩まされる段階を経て、自己が現実を認識して現実に溶け込む段階へと至る、コントの「3段階の法則」のパターンに当てはまるという指摘がある。結局現実を何ら変えることなく、うまく現実の中に収まってしまおうという意味では当たっている。

→ロチェスターに妻がいることが分かり、彼の元を飛び出す当たりから話の展開が慌ただしくなる。遺産が入り、バーサが都合よく死んでくれるなど、話が意外な方向に目まぐるしく展開して行くメロドラマ的な展開になっている。なぜ自分はこんな目に遭うのか、「不合理だ、不公平だ」と激しく反抗していた前半の力強さはなくなっている。

⑨遺産を相続するとさっさと教師を辞める。

→男に養われるという「家庭の天使」に止まらずに、経済的自立を目指す発言もしているが、それも遺産を相続するまでのこと。貧しい子供たちを教育しながら、彼らにも個人差があると気づいてゆくが、これも遺産が入ると人に任せてしまう。



■日本でも親しまれるジェーン・エア



Musical
脚本・演出: ジョン・ケアード
作詞: ジョン・ケアード
作曲: ポール・ゴードン

愛することの勇気を知った
それはあなたを信じること——

松 たか子
橋本さとし
幸田浩子
寿 ひずる
旺 なつき
伊東弘美
山崎直子
小西遼生
福井貴一
壤 晴彦

Jane Eyre
Music and Lyrics by
PAUL GORDON
Book and additional Lyrics by
JOHN CAIRD
Based on the Novel by Charlotte Brontë
*Jane Eyre is presented through special arrangement with Music Theatre International (MTI),
431 West 42nd Street, New York, New York 10018 • tel. (212) 611-6044 • www.mtintl.com

2009年9月2日[水]—29日[火]
ご観劇料(税込): S席 ¥12,600 / A席 ¥7,350 / B席 ¥3,150

◎日生劇場 プレビュー公演 9月1日[火]
NISSAY THEATRE S席 ¥10,000 / A席 ¥5,000 / B席 ¥2,500

製作: 松竹 主催: 松竹株式会社 フジテレビジョン

たか子が主演を務めるミュージカル『ジェーン・エア』が、2012年10月に再演される。情熱と強い意志を内に秘めた女性を描いた本作を、00年にジョン・ケアードが、脚本・作詞・演出を手掛けミュージカル化。日本では09年に初演され、松たか子は本作で、第35回菊田一夫演劇賞を受賞するなど好評を博した。

共演には、初演に続きロチェスターを演じる橋本さとしをはじめ、今回も実力派の面々がそろそろ。

公演は、10月に日生劇場にて、11月に博多座にて予定。

■ 2012年、日本で映画『ジェーン・エア』公開

イギリス、アメリカでは早くも公開されている。第84回アカデミー賞、衣装デザイン賞にノミネートされた。



『アリス・イン・ワンダーランド』で注目されたミア・ワシコウスカが、不幸な境遇をものともせぬ力強いヒロインを好演している。



『SHAME -シェイム-』のマイケル・ファスベンダー、『恋におちたシェイクスピア』のジュディ・デンチら、若手実力派やベテランをそろえた共演陣も見ものだ。監督は『闇の列車、光の旅』の新鋭、ケイリー・ジョージ・フクナガ。

■愛され続ける『ジェーン・エア』～感想～

女性が自分から男に恋を打ち明けるなんてあってはならないと考えられていた時代に登場した「ジェーン・エア」は、女性に対する社会通念をことごとく打ち破った。「良識」ある人たちからは、「絶対に良家の子女に読ませてはならぬ」という非難まで浴びた事もあったそうだ。しかし、今や米国の女学生にとっては、「ジェーン・エア」を読んでおくことは、「あしながおじさん」を読むことと同じく、教養の枠を超えて、たしなみになっているようだ。

また、「サイダーハウス・ルール」という作品には、孤児院から逃げ出した少女が無一文でさすらいの旅に出る場面がある。少女が逃げ出したことを告げられた孤児院の院長は、少女が「ジェーン・エア」を持ち去ったことを知って安心する。「彼女はいい本を持ち合わせている。それを読んで、読んで、読みつづけさえすれば」と。少女は、旅の途中で何回も「ジェーン・エア」を読み返す。

このように「ジェーン・エア」は、今でも、世界中で愛読され続けている。これからも、「ジェーン・エア」は名作として永遠に人々の間で愛され続けていくだろう。

